

論文で「泣かない・逃げない・困らない」ために

ゼロから学ぶ論文の書き方

2012年12月6日 12:50～14:20

教育開発センター 辻 義人

論文作成が難しい理由

論文を作成するには、同時に
二つのことに注意する必要がある

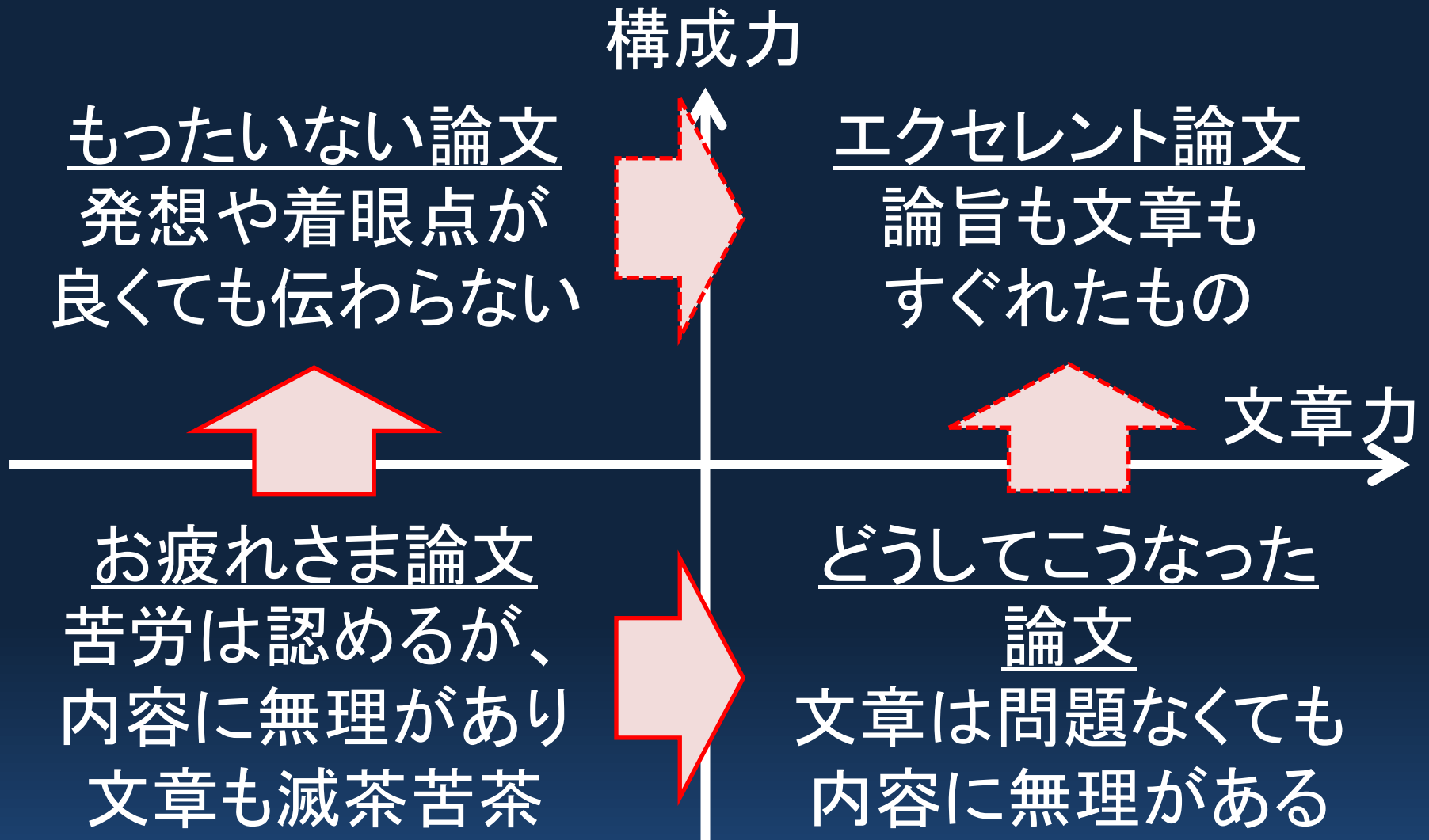
論文の構成を
考える
(構成力)

幅広い注意

執筆ルールを
守って書く
(文章力)

細かい注意

教員側から見た論文の分類



エクセレント論文に近づくには

『論文としての形を意識する』

『規則に従って文章を書く』

→同時に2つを達成する必要あり。

講習会の内容

「文章力」と「構成力」トレーニング

1. まず「文章」を書く(文章力)
2. 論文作成の流れ(構成力)
3. 論文作成のコツ(Tips)

1. まず「文章」を書く(文章力)

- 必ず「である」調で書く
→ ですます調・だ調は使わない

(例)

小樽市の人口は約13万人である。
札幌市の人口は約193万人です。
旭川市の人口は約35万人だ。
→ 先行研究を読むと慣れます

- 一文を短くする
→ 短い文章は読みやすい。

(複文の例)

自己効力感とは、自分の行動に対する自信であり、これが高い大学生は就職内定率が高い。

→ 単文2つの方が読みやすい。

- 効果的に改行する
→ パラグラフを作る

一斉に大声を出したり拍手する課題があるとき、一人当たりの努力量が減少する効果がみられる。これは社会的な手抜きと呼ばれる。

これには文化的な差も確認されている。特に個人主義で顕著である。

- 箇条書きを活用する
→「事前情報」を与えておく

性格検査は、以下の3種類である。

①質問紙法。②作業検査法。③投映法。

(第一に…、第二に…。
これも便利です)

- 最初に見出しから書く
→ 全体像を先に把握する。着地点。

1. はじめに

1. 1. ○○に対する社会的注目

1. 2. ○○に関する先行研究

1. 3. 先行研究の問題点

1. 4. 本研究の目的

2. 方法

【要点】まず「文章」を書く

- 「である調」で書く
- 一文は短くする
- 効果的に改行、パラグラフ作成
- 箇条書きを活用する
- 「見出し」から書く

→ 「読みやすい」は「書きやすい」

2. 論文作成の流れ(構成本)

(1) 研究目的を決める

(2) 先行研究の調査

(3) 研究活動を開始する

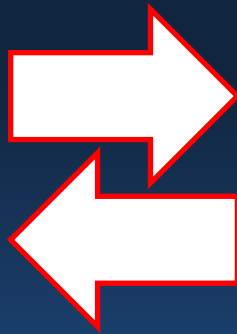
(4) 研究成果を論文にまとめる

(1) 研究目的を決める

ゼミで発表する、発表を聞く
→「これもっと知りたい」の発見

ある段階までは、目的修正も可能。

目的設定



文献検索

(2) 先行研究の調査

自分が知りたいテーマについて、
誰がどこまで研究しているのか？

大学附属図書館：蔵書検索

→ まとまった本で勉強したいとき

CiNii(サイニイ)：論文検索

→ ピンポイントで調べるとき

(3) 研究活動を開始する

ここから先は指導教員の役割。

調査： アンケート作成・配布・分析

実験： 被験者を集めて課題実施

展望： 先行研究の概観・総括

→ 教員を「使い倒す」こと。

(4) 研究成果を論文にまとめる

[決してやってはいけないこと]
いきなり本文を書き始めること

[では、どうすれば・・・？]
ある程度の結論が見えたら、
先に「見出し」を考えて並べること
(着地点を見据えてジャンプする)

『論文作成の近道は、結局遠回り』

→ いきなり本文を書き出さない！

『実は遠回りした方が早い』

→ 見出し(着地点)を見据えて、
十分に準備してから書くこと

【要点】論文作成の流れ

- 最後までつきあえる「目的」設定
- 先行研究を集めてまとめる
- 研究活動を開始する(教員指導)
- 研究結果をまとめる(見出しから)

3. 論文作成のコツ(Tips)

- 盗作をしない(引用文献の記載)
- 単文と接続詞で「良い文章」に
- 「徹底的に個性を消す」という個性
- 論文は苦労話ではない

- 盗作をしない(引用文献の記載)

先行研究からの引用を明記。

【参考文献の書き方】

著者(西暦)論文名, 雑誌名, Vol.XX
(No.XX), XX-XX

辻義人(2012)〇〇の検討, ××学
会誌, Vol.12(No.3), 12-19

→ アルファベット順で記載する

- 単文と接続詞で「良い文章」

複文を避けて単文で書く。
そして、適切な接続詞でつなぐ。

(論文で使える接続詞)

また、そして、同時に、ならびに、
加えて、そのため、このことから、
その一方、しかし、・・・など

→ 他の論文から表現を盗むこと

- 「徹底的に個性を消す」という個性
→ 論文に「味わい・情緒」は不要。
極限まで個性を見せない。
(それでも個性は残ります)
- 論文は苦労話ではない
→ 読み手が知りたいのは、
目的・方法・結果と考察・結論。
苦労話は書いてはいけない。

【結論】論文作成は難しい

- 「構成力」と「文章力」が必要
- 授業料の元を取るつもりで、
教員を使い倒すこと
- とにかくやってみる・書いてみる
(何もないと指導もできない)

論文作成に役立つ本

小笠原喜康(2009)新版 大学生のための
レポート・論文術, 講談社現代新書
→720円&2時間 → 卒論まで保証!

荒木晶子・向後千春・筒井洋一(2000)
自己表現力の教室, 情報センター出版局
→「書かないですむならそれがイチバン」